

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「かく こと たのしいな」 教材名「かく こと たのしいな」

2 単元の目標

平仮名を読み、書くことができる。（〔知識及び技能〕(1)ウ）

姿勢や鉛筆の持ち方を確かめ、平仮名を書くための線や字形に親しむ学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①平仮名を読み、書いている。 （〔知識及び技能〕(1)ウ）	①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。	①姿勢や鉛筆の持ち方を確かめ、平仮名を書くための線や字形に親しむ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

姿勢や鉛筆の持ち方を確かめ、平仮名を書くための線や字形に親しむ。この教材では、見本と比べた線や平仮名、書きやすくなった姿勢や道具の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

漢字や片仮名は扱わず、当日の教材の線や平仮名を対象にする。運筆の困難には太い筆記具や補助具を用い、持ち方の外見だけで評価しない。想定する難しさは、見本の始点を見ずに動かす、姿勢を保つ負担で書くことを嫌になる。評価では、平仮名を読み、書いているかを、見本と比べた線や平仮名、書きやすくなった姿勢や道具の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 机と体の位置、紙と鉛筆の持ち方を教師と確かめる。教材の見本を手元で見て線や平仮名を書き、始まりと終わりを比べる。対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。	知①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

平仮名を読み、書くことができる。（〔知識及び技能〕(1)ウ）

(2) 学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 ○「見本と自分の書いた線を比べ、どこを確認めたいですか」 【めあて】姿勢や鉛筆の持ち方を確認め、平仮名を書くための線や字形に親しむ。 〈予想される児童の反応〉 ・書き始める場所を確認めたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「見本と自分の書いた線を比べ、どこを確認めたいですか」 机と体の位置、紙と鉛筆の持ち方を教師と確かめる。教材の見本を手元で見て線や平仮名を書き、始まりと終わりを比べる。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 〈予想される児童の反応〉 ・書き始める場所を確認めたい。 ・紙を押さえると線を書きやすい。	漢字や片仮名は扱わず、当日の教材の線や平仮名を対象にする。運筆の困難には太い筆記具や補助具を用い、持ち方の外見だけで評価しない。 想定する難しさ：見本の始点を見ずに動かす、姿勢を保つ負担で書くことを嫌になる。 評価では、平仮名を読み、書いているかを、見本と比べた線や平仮名、書きやすくなった姿勢や道具の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎知① 平仮名を読み、書いている。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 見本と比べた線や平仮名、書きやすくなった姿勢や道具の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認める。 〈予想される児童の反応〉 ・紙を押さえると線を書きやすい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認める。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「見本と自分の書いた線を比べ、どこを確かめたいですか」。中央は、見本と比べた線や平仮名、書きやすくなった姿勢や道具の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

